



紅糸威胴丸具足

くれないいと おとし どう まる ぐい ぞく  
江戸時代 財団法人松井文庫

幻の工芸品「八代染草」

そめ かわ

松井家で元服の折に用いたと伝える、やや小型の甲冑である。まず目につくのは特異な姿の兜。これは、ものの形を象った張子(はりこ)和紙を型の上に貼り重ねて形を作り、型を抜いた後に漆で塗り固めたものを付けたもので、張懸兜と呼ばれている。黒漆塗の兜鉢の上に金箔を押しした扇形の張子と、さらに同じく箔を押しした立纏と称する立物が二筋添う。また、胴に垂らす草摺の裾板に植えられた熊毛も目を引く。精悍な基調の黒と鮮やかな紅の糸のコントラスト、兜の形のユークと金色のきらめきがこの甲冑の見どころである。

ところで、ここに実はもう一つの隠れた見どころがある。それは、胴の裏に張り込まれた天平草と称する染草である。染草は鹿草に文様を染めたもので、奈良朝の昔から遺品を伝える日本の伝統工芸である。天平草は獅子と牡丹、梵字、不動三尊や「天平十二月八日」という年号を染めるところからそう称される。肥後八代はその名産地で、正平年号を染めた正平草や小紋草とともに、細川家の献上品として毎年幕府へも贈られていた。明治の中期頃まで歴史に名をとどめるが、今となっては幻の工芸品である。

まさに、日本の伝統工芸の華である甲冑の美と、地方文化がミックスした貴重な一領といえるでしょう。

八代市立博物館 / 学芸員 福原透



利用のご案内

- 開館時間 午前9:00~午後5:00 (入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日、祝祭日の翌日(ただし、月曜日が祝祭日のときは翌日が休館)
- 入場料 大人300円 大学・高校生200円 小・中学生100円 団体割引は20人以上で2割引
- ※特別展の入場料はそのつど定める。
- 交通機関 バス/JR八代駅から八代営業所方面行きで福祉センター前下車、郡築方面行きで市立博物館前下車。10分車/国道3号線から八代市内へ入り、八代外港へ向かって10分



感動は言葉を越えて  
広大な自然に  
繰り広げられた芸術交流



本誌6月号で紹介した「熊本アートウィーク イン モンタナ」が、7月20日~26日、同州ボーズマン市で開催されました。テーマは「コラボレーション(共鳴・共存)」。熊本の芸術家たちが生花や音楽、彫刻などで神々の時代から現代までを表現。全米から集まった1000人以上の芸術家や観衆を沸かせました。(写真撮影/長野良市)

